

村中大祐 指揮 オーケストラ・アフィア 第5回演奏会

「自然と音楽」演奏会シリーズ
Nature and Music Vol.5

2014年10月2日(木)
19:00 開演

神奈川県立音楽堂
<http://www.kanagawa-ongakudo.com/>

ベートーヴェン ヴァイオリン協奏曲
メンデルスゾーン 交響曲第3番「スコットランド」
ヴァイオリン：三浦章宏

※曲目・出演者などはやむを得ず変更する場合がございます。

AfiA アフィア事務局
Tel : 080-3347-8118 / Fax : 045-512-8506

本日ロビーにてチケット先行発売中！

後援：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
協力：株式会社アイエムエス、B-flat Music Produce

2 Monday
Yokohama Port Opening
Memorial Hall

3 Tuesday
The Kanagawa kenritsu
Ongakudo

2014

DAY1

「鎮守の森・記憶の森 宮脇 昭氏 講演会」(ミニコンサート付)
講師：宮脇 昭 ピアノ：イリーナ・メジャーエワ
日時：2014年6月2日(月) 19:30 開演
場所：横浜開港記念会館
主催：AfiA Office

DAY2

オーケストラ・アフィア第4回演奏会
「自然と音楽」演奏会シリーズ 伝説 ~レジェンド~
指揮：村中大祐 ピアノ：イリーナ・メジャーエワ
日時：2014年6月3日(火) 19:00 開演
場所：神奈川県立音楽堂
主催：AfiA Office
後援：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

森の伝説

ベートーヴェンが悲しみに打ちひしがれて訪れた街、ハイリゲンシュタット
そこには今も静かな別荘地が広がっている

学生時代、このベートーヴェンが歩いた道を辿るのが好きだった
右手に広がった溪谷に沿って、丘の上をひたすら森へと歩いていくと
田園交響楽に出て来た鳥たちのさえずりが
そこかしこから聴こえてくる

小川のせせらぎに時が止まり
急に昔の自分を思い出した

子供のころに遊んだ近所の森で
僕たちにはお気に入りの榎の木があった

その幹を削り取り、密かに蜂蜜を塗っておくと
次の日には必ず誰かが留まっていた

ある時は兜の王様、またある時は両刀使いの切込み隊長

気が付いてみると
円形に鬱蒼と繁る木々が語り出す
「誰だ、お前は？」「名は何という？」
怖々自分の名前を口にすると、その瞬間
神々しいばかりの光が差し込んで
光と影の秘蹟を教えてくれる
温かな、そして誇らしげな神様を思った

それから四半世紀
音を語るとき、必ずこの秘蹟が頭をよぎる

音と同じ、この森の不思議を教えてくれたのは
西洋だろうか、それとも日本だろうか

村中大祐

6月2日(月)

「鎮守の森・記憶の森 宮脇 昭氏 講演会」
(ミニコンサート付)

～ミニコンサート～

ピアノ：イリーナ・メジャーエワ

シューマン：アラベスク 作品 18

ロマンス 変ロ短調 作品 28-1

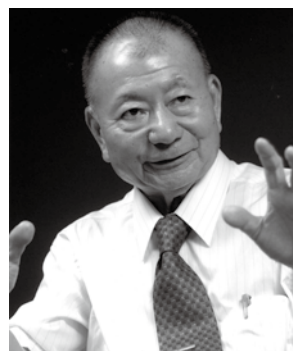
ブラームス：間奏曲 イ長調 作品 118-2

～講演会～

講師：宮脇 昭

“鎮守の森・記憶の森”

生態学者
宮 脇 昭
Akira MIYAWAKI



一 略 歴 一

1928年1月29日 岡山県に生まれる
1952年 広島文理科大学（現：広島大学）生物学科卒業
1958～60年 ドイツ国立植生園研究所研究員
1961年 広島文理科大学より理学博士号
1973～93年 横浜国立大学環境科学研究センター 教授
1985～93年 横浜国立大学環境科学研究センター長兼任
1993年～ 横浜国立大学 名誉教授
1993年～2007年 (財)国際生態学センター長
2007年4月～ (公財)地球環境戦略研究機関
国際生態学センター長

一 学会および社会における活動等 一

1974～2001年 通産省エネルギー庁環境審査会 顧問
1981年 ドイツゲッチンゲン大学より名誉理学博士号
1981年 ドイツザールランド大学より名誉哲学博士号
1984年 タイ国立メージョウ農工大学より名誉農学博士号
1996～1999年 国際生態学会 (INTECOL) 会長
1997年 ドイツハノーバー大学より名誉理学博士号
2000年6月～ 華東師範大学 顧問教授
2006年7月 マレーシア農科大学より名誉林学博士号

一 受 賞 一

1970年 毎日出版文化賞「植物と人間」
1973年 サンケイ児童出版文化賞「人類最後の日」
1975年 神奈川文化賞
1991年 1990年度朝日賞（「日本植生誌」完成により）
1991年 ドイツ・ゴールドエンブルーメ賞（Goldene Blume von Rheydt）
1992年 紫綬褒章
1995年 ドイツ・チュクセン賞（Reinhold Tüxen Prize）
1996年 日経地球環境技術大賞
1997年 日刊工業新聞 技術・科学図書文化賞「緑環境と植生学」
2000年11月 勲二等瑞宝章
2002年3月 第11回日本生活文化賞 個人賞「世界に鎮守の森を」
2003年3月 第1回日本生態学会 功労賞
2006年10月 植生学会 学会特別賞
2006年11月 第15回地球環境国際賞「ブルーブラネット賞」
2014年1月 第72回山陽新聞賞
2014年2月 第5回「KYOTO地球環境の殿堂」

2014年3月現在

6月3日（火）

オーケストラ・アフィア第4回演奏会
「自然と音楽」演奏会シリーズ 伝説 ～レジェンド～

指 揮：村中大祐
管 弦 楽：オーケストラ・アフィア
ピ ア ノ：イリーナ・メジャーエフ

メンデルスゾーン：「美しきメルジーネの物語」序曲
F. Mendelssohn Bartholdy : Ouverture zum Märchen von der schönen Melusine Op. 32

シューマン：ピアノ協奏曲
R. Schumann : Klavierkonzert a-moll Op. 54

ピアノ：イリーナ・メジャーエフ

ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」
L. van Beethoven : Symphony No.3 Es-dur Op. 55 "Eroica"

Nature and Music

「自然と音楽」演奏会シリーズは、2011年の東日本大震災後に生まれたプロジェクトである。

自然の猛威を感じながらも、自然との共生を続けていくために、われわれ音楽家がどのようなメッセージを発信したらよいかを考え、募金活動という形ではなく、実際に湘南国際村で行われている「植樹」や、東北で防波林を作るプロジェクトなどに演奏会から得られた利益を還元していくことを考えた。

音楽の成立過程のなかで、音楽が「自然」を表現し始めたことから、「音のなかに自然を感じ、自然と向き合う」ことを目的に、このテーマが作られた。

フェリックス・メンデルスゾーン・バルトロディ (1809～1847)

「美しいメルジーネの物語」序曲 作品 32 (1833 年作)

F. Mendelssohn Bartholdy : Ouverture zum Märchen von der schönen Melusine Op. 32

ベートーヴェンに「フィデリオ」以来のさらなる劇音楽の作曲を促す機運が高まった 1820 年代、周囲の呼びかけに答えるかのように劇作家グリルパルツァーの台本「メルジーナ」の作曲に取り掛かったベートーヴェンでしたが、その筆は一向に進まず、後にシューベルトにも託されたはずの「メルジーナ」は、結局コンラディン・クワイツァー (1780～1849) の手で、歌劇「メルジーナ」としてベルリンで初演されます。この初演に立ち会ったメンデルスゾーンは、聴衆から受けを受けた序曲が大層お気に召さなかったらしく、彼自らが然るべき序曲を作曲して見せた、というのが成立秘話です。

「メルジーナ」とは、水の精と領主の間に生まれた姫君でしたが、妻である妖精の出産を目撃した父親の因果で、母は妖精の国に幽閉され、その復讐として姉妹は父である領主を幽閉します。ですがその報いを受けたメルジーナは呪いをかけられ、週一日、半魚人にさせられるのです。その姿を誰かに見られたなら、今度はメルジーナも未来永劫、もとの人間に戻れなくなるという筋書き。どこなく我々日本人にも馴染みのある「鶴の恩返し」に似ていると思いませんか？

序曲の始まりから終わりまで、音で表現される水の流れは止まるところを知らず、妖精が人間と結び合うことで起きる、騎士たちの争いの場面や、睦み合うふたりの情熱が高揚する雰囲気、この序曲の中で語り尽くされています。妹のファニーだけでなく作曲家のシューマンも、ライブツィヒでの初演を聴いた後、この序曲を「真夏の夜の夢」同様高く評価しているのも頷ける話です。

ロベルト・アレクサンダー・シューマン (1810～1856)

シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 作品 54 (1845 年作)

R. Schumann : Klavierkonzert a-moll Op. 54

第一楽章：アレグロ・アッフエトゥオーゾ

第二楽章：インテルメッツォ

第三楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ

第一楽章は 1841 年に「オーケストラとピアノの為の幻想曲」として、妻のクララのために書き上げられましたが、その 4 年後の 1845 年、ようやく現在の形である 3 楽章形式のピアノ協奏曲となります。1841 年にはパリに住むワーグナーがシューマン宅を訪れますが、「1 時間も話しているのに、一言も語らないで黙ったままで！」とシューマンのことを非難しています。このシューマンの「黙り込む」性格は確かに困ったものでしたが、これに対して妻クララは「あのワーグナーという男は、1 時間自分の話だけして帰りましたよ。」と、一矢報いてやるのを忘れませんでした。このように仲睦まじい二人でしたが、彼らが 1840 年に結婚するまでの苦労は、並大抵のものではなかったようです。クララの父が二人の結婚に執拗な反対を続けたため、法的に父親を訴えざるをえない状況だったのです。

ですから二人が結ばれたことで生まれた作品が多いのも頷けるでしょう。

こうした「夫婦の絆 (Gattenliebe)」,そして「束縛からの解放 (Freiheitskampf)」が、この見事なピアノ協奏曲イ短調の第一楽章のテーマになります。楽曲冒頭にオーボエ奏者が歌い上げるメランコリックな旋律は、ベートーヴェンの歌劇「フィデリオ」の二幕冒頭で、地下牢に幽閉された夫フロレスタンが愛する妻フィデリオとの憩いの時を回想する旋律です (In des Lebens Frühlingstagen…「あの人生の春の日々に…」)。そしてこの旋律にはもう一つの仕掛けが、この有名なオーボエの旋律はドシララと始まりますが、ドイツ音名になおせば CHAA であり、実は CHIARA という女性の名前になるのです。このキアラというイタリア語、実はドイツ語の KLAR (英語の Clear)、つまり愛妻クララ (Clara) の名前なのです。前年の 1840 年、ようやく結婚が認められたシューマンは、愛妻クララからインスピレーションを受けて 168 曲もの歌曲を作曲しますが、その一連の創作意欲の中で生まれたのがこの旋律なのです。第二楽章から終楽章へと移行する際、この旋律が今度は長調で高らかに歌いあげられます。終楽章は「束縛からの解放」が実現した後、自由を謳歌する幸せなロベルトとクララのロンドなのです。

ルードヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (1770～1827)

交響曲第 3 番 変ホ長調 作品 55 「英雄」 (1804 年作)

L. van Beethoven : Symphony No. 3 Es-dur Op. 55 "Eroica"

第一楽章：アレグロ・コン・プリオ

第二楽章：マルチャ・フーネブレ (葬送行進曲)

第三楽章：スケルツォ / トリオ

第四楽章：アレグロ・モルト

ベートーヴェンの聴覚に異常が始まったのは、彼が 26 歳頃 (1796 年) のことです。その後 1801 年から 02 年にかけて更に悪化した症状に絶望したベートーヴェンは、高名なシュミット教授に診察を依頼します。その結果、静かでストレスのない場所に移住することを勧められ、1802 年 4 月にウイーン郊外のハイリゲンシュタットに移り住みます。静かな環境で創造的な毎日を送っていたように見えますが、実は 9 月を過ぎた頃、絶望に暮れて「ハイリゲンシュタットの遺書」と呼ばれる悲痛な心の叫びを、兄弟たちに宛てて書き遺していたのです。「ただ芸術的才能に対する自分の使命感だけが、この哀れな状況から死を決意するのを思い止まらせた」とする劇的な遺書とは裏腹に、この時期輝かしい交響曲第 2 番が生まれ、また当時のスケッチを基に 1803 年から 04 年にかけて英雄交響曲が作曲されます。

当時フランスの首都パリに活動拠点を移そうと考えたベートーヴェンにとって、ナポレオン・ボナパルテ (Napoleone Buonaparte) とは、フランス革命の「自由・平等・博愛」の精神を体現し、古いアンシャンレジームから民衆を解放した「英雄」でした。また当時の教養人達からは、ギリシャ神話で人類に火をもたらした「プロメテウス」の再来とも言われていました。

でもベートーヴェンは、ナポレオンがジュリアス・シーザーのような皇帝になることを許せませんでした。このことは彼の机の上には常にシーザーを暗殺したブルータスの胸像が飾ってあったことから想像できると思います。

弟子のフェルディナンド・リースの記述によれば、出来上がった英雄交響曲の表紙には、ナポレオンへの献辞を示す形で、当初はっきりと「Buonaparte ブオナバルテ」と書かれてあったそうですが、ナポレオン皇帝即位の知らせが耳に入ると、「あいつもこれまでと同じように人間の尊厳を踏みじり、己が欲望を満たすだけの男に成り下がったか。いずれ暴君となるだろう！」と言って、その最初の献辞が付されたページを引きちぎり、床に殴り棄てたそうです。その後最初のページには「偉大なる人間をほめたたえる為に作曲された英雄的な交響曲」という文句が付されていた、ということです。この手稿は残念ながら紛失されて今見ることはできません。

確かにこの交響曲が「偉大なるナポレオンについて」書かれたということは事実でしょうが、新天地であるパリでベートーヴェンが作曲家として成功するための、極めて現実的な献上の品であったことも十分に考えられます。結局パリ行きの話は流れてしまいますから、そうなればハプスブルクの敵であったナポレオンの名を冠する交響曲があつては、都合が悪い訳ですね。

この交響曲の特徴は、何といても第二章に挿入されている葬送行進曲です。一体「誰の」葬送なのか、と考えたとき、これを解く鍵はハイリゲンシュタットの遺書にあるように思われます。

1801年パレエ音楽「プロメテウスの創造物」の作曲によって、ベートーヴェンは空前の大成功を収めるのですが、彼の心はグイッチャルディ嬢との失恋の痛みや耳の聴覚障害によってズタズタに引き裂かれていました。おまけに1802年冬を予定していた「アカデミア」という大演奏会も、王室によって却下されてしまいます。絶望の淵に居たベートーヴェンの姿は、人間に火をもたらし「プロメテウス」が神々に罰せられ、石に括り付けられ、夜ごと鷲に臓物を抉り取られる光景と重なります。ベートーヴェンの作品の中で「プロメテウス」は、苦しみ抜いた後に解放されますが、一度その命を奪われ、死して後にまた再生するのです。英雄交響曲とは、ベートーヴェン自身の死と再生のプロセスを音にした作品なのかもしれません。自分が一度失った魂への鎮魂歌が第二章の葬送行進曲なら、その後続く第三章はまさに天上の国から再びやってくる彼の姿でしょうか。3本のホルンがトリオで織りなすファンファーレは、天上の響きとなって舞い降ります。そして決定的な意志と希望に満ちたフィナーレに、ベートーヴェンのこれからの人生に対する輝かしい決意のようなものを感じるのです。

指揮者
村中大祐
Daisuke MURANAKA

東京外国語大学ドイツ語学科を卒業後、ウィーン国立音楽大学で指揮を学び、トーティ・ダル・モンテ国際オペラコンクール指揮部門「ポッテガ」と第1回マリオ・グゼッラ国際指揮者コンクールで、いずれも第1位を獲得。フルトヴェングラーの高弟で20世紀最高のモーツァルト指揮者、ペーター・マークの薫陶を受け、また今年他界したクラウディオ・アッパードの下でも研鑽を積む。1995年、急病の師ペーター・マークに代わって、イタリア・トレヴィーゾにある「マリオ・デル・モナコ」歌劇場での公演初日2時間前に急遽抜擢されて指揮したモーツァルトの歌劇「魔笛」は、イタリア内外での話題を呼ぶ鮮烈なデビューとなった。



©Afia Office

これまでヴェネチア・フェニーチェ歌劇場、パレルモ・テアトロ・マッシモ、新国立劇場（日本）、スイス・ザンクトガレン・オペラ・フェスティバルや英国グランドボーンオペラ（アジア人初）などに登場し、ボーザル・ホール（ブリュッセル）、カドガン・ホール（ロンドン）、ドヴォルザーク・ホール（チェコ）、サーラ・ヴェルディ（ミラノ）等の演奏会に登場。オペラとコンサートのいずれでも世界各地で絶賛を博している。1999年に東京フィルハーモニー交響楽団でデビュー以来、NHK交響楽団をはじめとする国内主要オーケストラに招かれ、新国立劇場で指揮したモーツァルトの歌劇「魔笛」では第11回出光音楽賞（2001年）を受賞。これまでに第19回ヨコハマ遊大賞受賞（2007年）。また横浜オペラ未来プロジェクト「秘密の結婚」が三菱東京UFJ芸術文化財団音楽賞（2009年）を受賞している。

2006年～2009年横浜開港150周年記念事業「横浜オペラ未来プロジェクト」の企画・立案を行い、同プロジェクトを芸術監督として成功に導いた。また横浜OMPオーケストラを設立し、内外のアーティストの人材流通拠点を横浜に創出したことは、日本国内のみならず海外でも大きな反響を呼んだ。2011年5月にイタリアで行った東日本大震災の追悼コンサートをきっかけに、『自然と音楽』のテーマをライフワークとし、世界各国での演奏を繰り返している。

2013年にはオーケストラ・アフィア（Afia）を創設。『自然と音楽』演奏会シリーズとして、東京の鎮守の森・浜離宮朝日ホールでの一連のコンサートを開始。街の音・街の息吹きを取り入れるため、横浜での公開リハーサルを行い、また第二回「満月に寄す」では、鎌倉 鶴岡八幡宮の神嘗祭に合わせ、同社、若宮にて奉納演奏を行った。

2013年11月からは英国ロンドン・カドガンホールにてイギリス室内管弦楽団（ECO）との『自然と音楽』シリーズを開始。世界的ヴィオラ奏者ユーリ・バシュメットと共演し、シェーンベルクの「浄められた夜」、ベンジャミン・ブリテンの「イルミネーション」などを好演し、2014年4月にはベートーヴェン「田園」などを熱演して、満場の聴衆からスタンディングオベーションで迎えられた。イギリス室内管弦楽団には、ロンドン・カドガン・ホールでの2015年春の客演が既に決定している。

メディアでは、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」、日本テレビ系列「深夜のコンサート」やNHKFM、NHKBS、NHK教育テレビ、TOKYO FM、FMヨコハマ、TVKなどに多数出演。現在、FM横浜「THE BREEZE」（毎月最終週火曜朝11時～）ドルチェ・カンタービレに「ミュージック・コンシェルジュ、音のソムリエ」として出演中。クラシック音楽についてぎっくばらんにいろいろな角度から紹介している。

オフィシャルWebサイト：<http://muranplanet.com>

ピアノ
Irina Mejoueva
イリーナ・メジュエフ

ロシアのゴーリキー（現・ニジニー・ノヴゴロド）生まれ。5歳よりピアノを始め、モスクワのグネーシン特別音楽学校とグネーシン音楽大学（現・ロシア音楽アカデミー）でウラジーミル・トロップ教授に師事。1992年ロッテルダム（オランダ）で開催された第4回エドゥアルド・フリプセ国際コンクールでの優勝をきっかけに、オランダ、ドイツ、フランスなどで公演を行う。1997年からは日本を本拠地として活動を始め、東京文化会館小ホール、紀尾井ホール、トッパンホール、浜離宮朝日ホール、ハクジュホールなどでリサイタルを開催。

バロック、古典派から近・現代にいたる作品まで幅広いレパートリーを手がけるが、近年再評価の進むロシアの作曲家ニコライ・メトネルの作品紹介にも力を入れており、2001年にはメトネル没後50年を記念したシリーズ「忘れられた調べ」（東京、ムジカーサ）でその主要作品を4夜にわたって取り上げ注目を集めた。

2002年、スタインウェイ・ジャパン株式会社によるコンサートツアーを行う。2003年、サンクトペテルブルク放送交響楽団の日本ツアーにソリストとして登場したほか、2004年および2006年にカルテット・イタリアーノと室内楽を共演。2005/06年のシーズンにはザ・シンフォニーホール（大阪）で4回にわたるリサイタル・シリーズを開催、2006年からは毎年京都でリサイタルを行うなど、精力的な演奏活動を展開している。

これまでにロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ交響楽団、ゴーリキー・フィルハーモニー管弦楽団、ロシア・シンフォニーオーケストラ、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪センチュリー交響楽団、大阪交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、テレマン室内管弦楽団、九州交響楽団、山形交響楽団、高雄市交響楽団（台湾）などと共演。

CD録音にも積極的で、デンオン（コロムビア）や若林工房などから多数のアルバムをリリース。2007年から2009年にかけて録音した「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集」（5巻、10CD）は、全巻が「レコード芸術特選盤」に選ばれるなど高い評価を獲得した。

2010年リリースの「シヨパン：ノクターン全集」は同年度レコードアカデミー賞（器楽曲部門）に輝く。

2006年度青山音楽賞受賞。

2012年4月からは京都市立芸術大学で後進の指導にあたっている。



© 奥村和泰

コンサートマスター
三浦章宏
Akihiro MIURA

徳永二男氏に師事。1984年筑波大学を卒業し、翌年NHK交響楽団に入団。第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位入賞（1位なし）他受賞多数。1989年アフィニス文化財団の奨学生として、ドイツ・ミュンヘンへ留学、エルネ・セベスティアン氏に師事。

1999年より東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスター。これまでに新イタリア合奏団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー室内オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、神戸室内合奏団等と共演している。

リサイタル、室内楽活動も活発で、ポアヴェール・トリオ、鎌倉芸術館ゾリステン、JTアートホール室内楽シリーズへの度々の出演や、2007年にはヴェーラ弦楽四重奏団を結成、12月に横浜みなとみらいホールで結成コンサートを行った。

2011年6月には東京オペラシティ・コンサートホールにおいて、バッハ、ベートーヴェン、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を一夜で演奏するリサイタルを開催、2012年6月にJ.S. バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会、2013年4月にピアニスト清水和音氏とブラームス・ソナタ全曲リサイタルを行うなど、多彩で精力的な演奏活動を展開している。国立音楽大学や洗足学園音楽大学で後進の指導にもあたっている。



オーケストラ・アフィア奏者

第一ヴァイオリン

渡辺美穂 Miho WATANABE

名古屋生まれ。2006年から2012年まで東京フィルハーモニー交響楽団で2nd. ヴァイオリン フォアシュピラーを務め、2012年9月より大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。

濱田彰子 Shoko HAMADA

洗足学園音楽大学、同大学院修士課程器楽専攻を首席で卒業。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団団員、静岡県立沼津西高等学校芸術科非常勤講師。

早川元菜 Haruna HAYAKAWA

国立音楽大学附属音楽高等学校を経て、国立音楽大学を卒業。同大学卒業演奏会、読売新聞社主催・新人演奏会に出演。第2回ドイツ音楽コンクールにて最高位。また、国内コンクールにて入賞。欧州にて選抜によるオーケストラアカデミーおよびツアーに参加。北垣紀子、大関博明、徳永二男、漆原啓子の各氏に師事。現在、室内楽、オーケストラを中心に演奏活動を行う傍ら、後進の指導も行っている。

第二ヴァイオリン

芝田愛子 Aiko SHIBATA (首席)

東京藝術大学、ウィーン国立音楽大学卒業。チューリッヒ歌劇場管弦楽団、ウィーン放送交響楽団などで契約団員として活動。現在フリーの演奏家として活動中。

志摩かなえ Kanae SHIMA

東京藝術大学音楽学部卒業。2001年より横浜パロック室内合奏団団員。現在プロオーケストラやミュージカル、J-POPのライブなどでも活動中。

神保聡子 Satoko JINBO

東京藝術大学、同大学院修士課程修了。清水高師氏に師事。モーニングコンサートにて藝大フィルハーモニアと共演。米国SMUメドウズ音楽院卒業。E・シュミター氏に師事。コンチェルトコンペティションに優勝し、メドウズシンフォニーオーケストラと共演。

服部亜希子 Akiko HATTORI

国立音楽大学ヴァイオリン専攻を首席で卒業。武岡賞受賞。読売新人演奏会に出演。これまでに向田浩子、石橋洋子、三浦章宏の各氏に師事。

竹政大介 Daisuke TAKEMASA

愛媛県出身。洗足学園音楽大学音楽学部卒業。同大学大学院修了。全四国音楽コンクールにおいて、第32回最優秀賞受賞。第33回、第35回優秀賞受賞。

瀬堀玲実 Remi SEBORI

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て研究科修了。サイトウ・キネン室内楽勉強会、オペラプロジェクト参加。演奏家として活躍中。東工大管弦楽団の指導にあたる。

玄津舞 Mai GENTSU

武蔵野音楽大学卒業。在学中、同大学管弦楽団コンサートマスターを務める。現在、フリー奏者として室内楽、オーケストラを中心に活動中。

大藤康祐 Kosuke DAITO

横浜生まれ。昭和音楽大学卒業、専攻科修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院でイーゴリ・オイストラフに学ぶ。清水高師、川上久雄の諸氏に師事。

ヴィオラ

七澤達哉 Tatsuya NANASAWA (首席)

東京藝術大学音楽学部卒業。第12回大阪国際音楽コンクールアンサンブル部門第1位。神戸市長賞受賞。カルテットN等のヴィオラ奏者として、室内楽のコンサートで活躍中。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、SKF等に参加。これまでにヴィオラを川本嘉子氏、川崎和憲氏、市坪俊彦氏に師事。

高橋 奨 Susumu TAKAHASHI

東京音楽大学卒業、洗足学園音楽大学大学院修了。ヴィオラを兎東俊之、百武由紀、岡田伸夫、井野邊大輔の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団ヴィオラ奏者。

奥泉貴圭 Takayoshi OKUIZUMI (首席)

東京藝術大学附属音楽高等学校を卒業後、ドイツ・トロッシンゲン音楽大学を経て、2007年より2年間バイエルン国立歌劇場の契約団員として研鑽を積む。2006年度文化庁在外研修員。上野学園非常勤講師。

飯島哲蔵 Tetsuzo IJIMA

4歳よりチェロを始める。これまでにチェロを中島克久、前田善彦、河野文昭、上森祥平、山崎伸子の各氏に師事。現在、東京藝術大学4年に在学中。

鈴木大樹 Taiki SUZUMURA

3歳よりヴァイオリンを始め18歳でヴィオラに転向。第9回東京音楽コンクール3位。これまでに宮崎国際音楽祭、プロジェクトQ等のコンサートに出演。岡田伸夫氏に師事。

平野真生 Manao HIRANO

洗足学園音楽大学卒業。同大学院修士課程修了。ヴィオラスペース、GMMFS、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト、サイトウ・キネン・フェスティバル松本「子供のための音楽会」「青少年のためのオペラ」等参加。ヴィオラと室内楽を岡田伸夫、須田祥子の両氏に師事。

チェロ

小泉ユミ Yumi KOIZUMI

桐朋学園大学音楽学部卒業。オランダ、ズウォーレ音楽院およびメシアンアカデミー修了。チェリスト兼声楽家。ファンデアーク音楽院主宰。

コントラバス

倉持 敦 Atsushi KURAMOCHI (首席)

茨城県出身。17歳よりコントラバスを始める。茨城県立取手松陽高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。これまでに小澤征爾音楽塾、別府アルゲリッチ音楽祭、宮崎国際音楽祭、防府音楽祭などに出演。オーケストラ、室内楽を中心に、スタジオレコーディングなどジャンルを問わず活動中。現在、東京藝術大学管弦楽研究部(藝大フィルハーモニア)及び、同大学音楽学部附属音楽高等学校非常勤講師。

菅野紗綾 Saya SUGANO

フルート

宮崎由美香 Yumika MIYAZAKI (首席)

東京藝術大学首席卒業。同大学大学院修了。日本木管コンクール第2位。フルートコンベンションコンクール第2位。管打楽器コンクール第2位。NHK交響楽団他、多数の客演首席を務める。尚美ミュージックカレッジ非常勤講師。

柴田真梨子 Mariko SHIBATA

岡山県出身。東京藝術大学音楽学部卒業、同大学大学院音楽研究科修了。ドイツのコレギウム・ムジクム国際音楽セミナー「オーケストラ・室内楽コース」修了。第9回レ・スプレンドル音楽コンクール管楽器部門第3位入賞。第25回東京国際芸術協会新人演奏会オーディション合格。第13回日本フルートコンベンションコンクール・ピッコロ部門第2位入賞。現在、東京吹奏楽団フルート奏者。フルートカルテット「プロテア」メンバー。フルート専門店「テオバルト」講師。岡山フルートの会特別会員。

オーボエ

岡 北斗 Hokuto OKA (首席)

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了。ドイツ国立ロストック音楽・演劇大学にて国家演奏家資格を取得。現在、藝大フィルハーモニア・オーボエ奏者（東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師）。

多田敦美 Atsumi TADA

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学別科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。日演連推薦新人演奏会にて札幌交響楽団と共演。現在、フリー奏者として活動。寺岡隼、小畑善昭、オットー・ヴィンター、池田昭子各氏に師事。

クラリネット

櫻田はるか Haruka SAKURADA (首席)

国立音楽大学卒業。桐朋オーケストラアカデミー研修課程及び研究科修了後渡仏。ヴェルサイユ地方国立音楽院及びパリ12区立音楽院修了。現在、在京オーケストラ及び吹奏楽団に客演出演他、ソリスト、室内楽奏者として活動。足利市民会館専属室内オーケストラ、足利カンマーオーケスター団員。

佐藤由紀 Yuki SATO

東京音楽大学卒業後、渡仏。ヴァル・モビエ地方音楽院、オーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方音楽院クラリネット科を共に満場一致の1等賞を得て卒業。仏、ピカルディ音楽コンクール1等賞。第11回日演連新人演奏会にて仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。

ファゴット

武井俊樹 Toshiaki TAKEI (首席)

桐朋学園大学音楽学部卒。卒業演奏会および読売新人演奏会に出演。1991年から1997年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団に在籍。外山雄三氏（音楽監督/当時）他の指揮により定期演奏会等でソリストとしても出演。第9回日本管打楽器コンクール・ファゴット部門第2位受賞。読売日本交響楽団に在籍。

黒田紀子 Noriko KURODA

武蔵野音楽大学卒業。ファゴットを境野達男、岡崎耕治、S. Azzolini、P. Maronoの各氏に、室内楽を山本正治氏に師事。現在はフリーのファゴット奏者として在京、地方のオーケストラ、吹奏楽での演奏、スタジオ収録などで活動中。

ホルン

上 間 義 之 Yoshiyuki UEMA (首席)

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学卒業、桐朋学園大学研究科にて学ぶ。ホルンを故 安原正幸氏に師事。仙台フィルハーモニー管弦楽団を経て、現在、東京交響楽団首席ホルン奏者。洗足学園音楽大学非常勤講師。

伴野涼介 Ryosuke TOMONO

東京藝術大学卒業。同大学大学院修士課程修了。平成22年度文化庁在外研修制度によりフランクフルト音楽・舞台芸術大学で学ぶ。読売日本交響楽団ホルン奏者、東京藝術大学非常勤講師

萩原顕彰 Kensho HAGIWARA

北海道旭川出身。12歳よりホルンをはじめ。東京音楽大学卒業。第5回日本管打楽器コンクール3位入賞、第59回日本音楽コンクール入選。アスペンミュージックフェスティバル（米国）に参加。インターナショナルホルンワークショップ（米国）において招待演奏を行う。現在、あらゆるジャンルのレコーディング、ライブに出演するなどマルチプレイヤーとして活動中。上野学園大学非常勤講師。トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズメンバー。

トランペット

田中敏雄 Toshio TANAKA (首席)

1994年東京音楽大学卒業。トランペットを津堅直弘氏に師事。1992年にサンドポイント（米国）音楽院に参加し、室内楽をH. フィリップス氏、W. マルサリス氏の両氏に師事。在学中に関西フィルハーモニー管弦楽団に入団。現在、同団を経て読売日本交響楽団トランペット奏者、トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ、なぎさプラスゾリス、Mostly Trumpet『THE MOST』メンバー。上野学園大学非常勤講師。

松下絵里 Eri MATSUSHITA

東京音楽大学卒業。トランペットを上田仁、津堅直弘、高橋敦、栃本浩規、A. アンリの各氏に師事。第18回浜松国際管楽器アカデミーにてG. ゾンマーハルダー氏に師事。第84回横浜新人演奏会に出演。東京ファンファーレオーケストラ、トランペットアンサンブル「PETEN」メンバー。

ティンパニ

小原由紀 Yuki OHARA (首席)

東京音楽大学付属高等学校を経て、同大学卒業。東京音楽大学教職課程管弦楽・吹奏楽指導助手。これまでに、菅原淳、野口力、藤本隆文、岡田真理子、藤本佳子の各氏に師事。